

## 環境省における環境配慮契約の取組状況

### 1. 平成 19 年度の取組状況

#### (1) 経緯

環境配慮契約法及び基本方針に基づき、可能なものから環境配慮契約を締結するとともに、平成 20 年度からの環境配慮契約の本格的な実施に向け、具体的な運用を定めるなどの取組を行った。

#### (2) 環境配慮契約の締結状況

基本方針で環境配慮契約の具体的な方法が定められている電気の調達、自動車の購入、省エネルギー改修事業（ESCO 事業）及び建築物の建築又は大規模な改修に係る設計業務のうち、中央合同庁舎第 5 号館本館庁舎で使用する電気の調達に関して、以下のとおり環境配慮契約がなされた（注1）。

契約期間	平成 20 年 3 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日
契約電力	5,200kW
予定使用電力量	17,183,080kWh
契約方式	事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注2）
入札申込者	1 者（入札参加資格に適合した者：1 者）
落札者	東京電力株式会社

（注1）環境省は中央合同庁舎第 5 号館本館庁舎の一部を執務室として利用しているが、当該契約においては、本庁舎を管理する厚生労働省が一括して実施。環境省は、当該契約について入札参加資格（裾切り方式に関する数値等）の提案を行うとともに、厚生労働省に対し所要の分担金を負担した。

（注2）当該入札の申込者のうち、二酸化炭素排出係数、未利用エネルギー活用状況、新エネルギー導入状況及びグリーン電力証書の調達者への譲渡予定量に係る数値をそれぞれ点数化し、その合計が基準以上である者の中から、最低の価格をもって申込みをした者を落札者とするもの。

#### (3) その他の環境配慮契約に係る事項

- 環境配慮契約を推進するための環境省における体制として、環境物品等の調

達の推進に関する基本方針に基づき設置された「環境省グリーン調達推進体制」を活用することとした。

- 自動車の購入に係る契約については、平成 20 年度から総合評価落札方式を実施できるよう、財務省と包括協議を実施した。
- 建築物の建築又は大規模な改修に係る設計業務については、環境配慮型プロポーザル方式を実施に関する通知を省内に発出し、周知を図った。
- ESCO 事業については、環境省が管理する施設について検討を行った。ESCO 事業実施の可能性が最も高い 1 施設について 20 年度以降更なる検討を実施する予定である。

## 2. 平成 20 年度の環境配慮契約の実績と予定

電気の調達、自動車の購入、省エネルギー改修事業（ESCO 事業）及び建築物の建築又は大規模な改修に係る設計業務に関する平成 20 年度の環境配慮契約の実績、予定は以下のとおり。

### (1) 電気の供給を受ける契約（予定）

施設名	中央合同庁舎第 5 号館
契約期間	平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日
契約電力	5,200kW
予定使用電力量	未定
契約方式	事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）

### (2) 自動車の購入に係る契約

#### ① 調達済

車種	ガソリン乗用車等（1,800～1,950cc クラス）
台数	3 台（契約 3 件）
契約方式	総合評価落札方式
調達結果	いずれもハイブリッドカー

#### ② 調達予定

車種	1,500～3,500cc クラスのガソリン乗用車、2,000cc クラスのガソリン貨物自動車
台数	15 台
契約方式	総合評価落札方式

(3) 省エネルギー改修事業 (ESCO 事業) に係る契約 (予定)

施設名	生物多様性センター
実施内容	平成 21 年度予算要求に向けて、長期供用計画を整理して ESCO 事業のフィージビリティ・スタディ調査を行う予算の準備をしている。

(ESCO 事業の選定過程、検討経緯については別紙参照)

(4) 建築物の建築又は大規模な改修に係る設計業務に係る契約 (予定)

施設名	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 鹿子前 (かしまえ) インフォメーションセンター建築設計業務</li><li>・ 樺平インフォメーションセンター基本計画、実施設計策定業務 (仮称)</li><li>・ 円山博物展示施設実施設計業務 (仮称)</li></ul>
契約方式	環境配慮型プロポーザル方式

3 施設の概要は下記のとおり (予定)。

・ 鹿子前インフォメーションセンター

所在地：長崎県佐世保市

延床面積：650 m<sup>2</sup>

構造規模：木造 2 階建

・ 樺平インフォメーションセンター

所在地：富山県黒部市

延床面積：300 m<sup>2</sup>

構造規模：RC 造 2 階建

・ 円山博物展示施設

所在地：北海道豊富町

延床面積：未確定

構造規模：木造平屋建

## 環境省における ESCO 事業の検討状況

### 1. 平成 19 年度における選定過程

環境省が管理する全施設について施設概要を把握し、ESCO 事業の採算性を考慮して施設当たり延床面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上の 4 施設について基礎的な情報収集を行った。

具体的には下記のとおり。

- ①環境調査研修所：平成 14 年度に高効率な Hf 蛍光灯への改修、平成 18 年度に窓ガラスの複層化、空調設備のインバーター制御化、実習施設の全館空調設備の個別対応エアコンへの変更、平成 19 年度には太陽光発電パネルを増設といった環境負荷低減のための改修工事を行っている。
- ②国立水俣病総合研究センター：平成 18 年度から 19 年度にかけて熱源や給湯設備、蛍光灯設備等の交換を中心とするグリーン改修工事を実施済みであり、また平成 19 年度末から 3 ヶ年の耐震補強工事を行っている。
- ③ 新宿御苑：主要な施設である温室について、建て替えに向けた作業中。

以上の施設は、いずれも直近にグリーン化に向けた改修を行い、省エネ化が進んでいるため、現時点における ESCO 事業の可能性が特に高いわけではないと判断した。

- ④生物多様性センター：竣工後 10 年が経過し、また、原設計時の想定と現在の利用状況とに大幅な乖離がある。気象条件の厳しい土地に位置し、外部に面した設備を中心に劣化が進んでおり、これらの設備の更新時期も考慮して、ESCO 事業の可能性が高いと判断し、更なる調査を進めることとした。

### 2. 平成 20 年度における検討状況

19 年度の絞り込みにより抽出した生物多様性センターについて、20 年度、更なる調査を行っている。

4 月以降、現地調査を行い、使用状況や設備の劣化状況を確認するとともに、原設計の設計者よりヒアリングを実施し、原設計の意図等を確認した。

現在、平成 21 年度予算に向けて、長期供用計画を整理して ESCO 事業のフィージビリティ・スタディ調査を行う予算要求の準備をしている。

なお、環境省所管の独立行政法人である国立環境研究所については、平成 17 年度から ESCO 事業を実施している。

## 生物多様性センターの概要

所在地：山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1

主要用途：資料館

建築面積：2,725 m<sup>2</sup>

延床面積：4,276 m<sup>2</sup>

構造規模：RC 造 地上2階 地下1階

竣工年次：平成10年(1998年)

### <空調設備>

熱源設備 空冷ヒートポンプチラー (80HP 1基+40HP 2基)

温水潜熱式蓄熱タンク (12トン2基)

ガス焚無圧開放型 LPG ボイラ

個体蓄熱式電気温水器

空気調和設備 一般諸室：外調機+ファンコイルユニット

会議室：外調機+空調機

展示室：外調機+空冷ヒートポンプパッケージ

収蔵庫：外調機+恒温恒湿用パッケージ

床暖房設備 温水式 (エントランスホール・会議室)

### <衛生設備>

給水方式 井水使用 (沈砂槽6トン+受水槽12トン)

給湯方式 中央式:真空二重ガラス管太陽熱集熱器/局所式:貯湯式電気温水器

排水方式 公共下水道

## 施設全景



# 1階平面図兼配置図

